

# 私たちの生活と税金

葛西中学校3年 松本 朋子

皆さんは税金について詳しく知っていますか。納税は、日本国憲法において国民の義務となっています。税金は主に、警察署や病院の運営、橋や道路の整備、災害復旧など、私たちの生活を支えることに使われています。教科書などの教材や学校で使用するタブレットなども税金によって賄われています。これらのサービスには税金が必要なため、私たちが税金を納めていく必要があるのです。

そんな税金がなくなってしまうたら、私たちの生活はどうなるのでしょうか。例えば、今は救急車を呼べば無料で病院まで運んでもらうことができます。救急車が一台出動するには4万円から13万円の経費がかかっているそうです。もし税金がなかったら、その大金を自分たちで払わなければなりません。税金なしの生活は大変になってしまいます。

次に直接税と間接税について説明します。直接税とは、所得税など、税を納める人と負担する人が同じ税金のことです。間接税とは、消費税やたばこ税など、税を納める人と負担する人が異なる税金のことです。直接税の長所は、高収入の人からたくさん税金を徴収することができ、貧富の差の解消に近づけることです。短所は、所得が増加しても税金も上がるため、収入額があまり変わらないことです。間接税の長所は税を負担している感覚が少なく、事業意欲などが失われることがないことです。短所は、税を負担する人の事情が反映しにくいいため、低収入の人に負担が大きくなってしまう場合があることです。

私は間接税よりも直接税の方が大切だと思いました。理由は、直接税は貧富の差を縮めることができるからです。低収入の人の税金負担が大きくなると、税金や国への意識が下がってしまうと思ったからです。税金は日本の収入における貧富の差をなくすために重要だと思います。

この14年間で消費税率が8%から10%に増加しました。このことで、税収が4兆円増加しました。これらの税金は、子育てや教育、介護や年金などの少子高齢化対策に使われます。

私の母は、家事・育児支援事業「えどがわママパパ応援隊」で働いています。この仕事は、江戸川区に住む3歳未満の子どもがいる家に、家事を手伝いに行く仕事です。母は、お金をもらっていますが、母が仕事をしに行く家は、基本無料でサービスを受けられます。区が利用料を補助しているからです。これは私にとって、私たちが納める税金が子育てに使われていることが分かる、とても身近なことです。

この作文を通して税金をより知ることができました。これからは、税金が私たちの生活を支えていることを意識して税金を納めたいです。